

顯正寺だより

平成28年7月発行 No3
四日市市西日野町2970
TEL 059-321-0225

顯正寺の本堂は、平成8年の台風により大きな被害を受け、その後顯正寺・放光寺両寺壇信徒のご支援で、平成12年に大修理が行われ、屋根の葺き替えとお仏壇のお洗濯が実現しました。

今回は葺き替えに携わっていただいた京都の「葺技塾 有限会社徳舂瓦店」の協力を得て、見所いっぱいの本堂の屋根についての内容を特集します。



顯正寺の本堂は、正面に向拝、裏面に緋破風を設けた入母屋造りの建物です。平成12年に修復工事が行われ、復元を元に吹き替えられたこの本堂の見所は、大棟に水板瓦を使用していること、降り棟と隅棟に箱冠瓦を使用していること。軒丸瓦の文様、破風の弛みの納まり、屋根の開きなどです。破風の弛みと転びが強く、棟の飾りや仕様により、一種独特の雰囲気醸し出しています。

水板瓦



写真① 水板瓦の納まり(表面)

顯正寺本堂の大棟の正面には、板状の瓦が横に並べて葺かれています。この板状の瓦は水板瓦と呼ばれ棟を飾る瓦として、動植物や文字風景など、多種多様な模様で作られることが多く、見る人の目を楽しませてくれます。

顯正寺の場合は高さ一尺七寸、幅二尺の水板瓦が17枚一組で構成されていて、全体の下部には、波がうねって渦を巻いている様子を、上部には風に乗って雲が動いている様子を描いています。そして、その間をぬうように雌雄の竜が三匹悠々と飛び交うなど深い彫りと立体的な作りによって、とても迫力があり、屋根全体の存在感を演出しています。



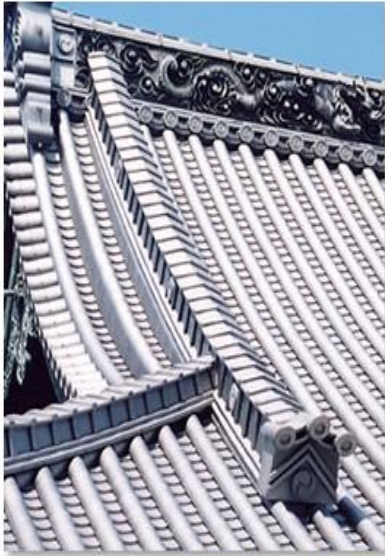
写真② 熨斗瓦で積み上げている(裏面)

この水板瓦は、本堂建立当初のものと想定され、焼き直して再使用されました。又、裏面には水板瓦を使用せず、熨斗瓦を16段積み上げて納めています。

社寺建築では建物を下から眺めた場合、遠近感により一番高くて遠い所にある大棟部分が、軒先の所より小さく見えてしまい、建物全体に広がりがなく、堂々とした感じがなくなります。そのため、破風板には「転び」をつけて、上へ行くほど外側へ出して開いた形で納めてあります。顯正寺本堂は、この転びが非常に大きい上に、裏甲の出寸法が破風板の上下で中央より多く出してあるため、片側で八寸以上もの開きがあります。その為、大棟際での平瓦の割り付け寸法を軒先部分より広く取り、平瓦全体を扇状に葺くと共に、降り棟より、外側では、幅の広い平瓦を上部に使用して、上下の幅の差を補っている。



写真◎ 破風板の転びが大きい



写真◎ 降り棟の箱冠瓦

箱冠瓦



写真◎ 降り棟の箱冠瓦

顯正寺本堂では、降り棟と稚児棟、二の棟に箱冠瓦を使用しています。大棟に使用されることの多いこの瓦が、それ以外に棟に使用されることは珍しく、独特の雰囲気を作っています。鬼瓦に近づく部分も、捨て熨斗瓦を入れるのではなく、徐々に大きな箱冠瓦を作り、高さをかえながら反り上がりをつけていて、所々に寺紋を入れるなど装飾性と重厚さを演出しています。

お盆のお墓勤め

- | | | | |
|------------|----------------|------------|-------------------|
| ◆四郷小西(室山) | 8月 8日(月) 午前7時～ | ◆(裏山)西高台 | 8月12日(金) 午前7時～ |
| ◆(裏山)東 | 8月12日(金) 午後4時～ | ◆(裏山)東 | 8月13日(土) 午前7時～ |
| ◆(裏山)六地藏 | 8月13日(土) 午後3時～ | ◆旧火葬場跡 | 8月13日(土) 午後3時10分～ |
| ◆(裏山)戦没者墓地 | 8月13日(土) 午後4時～ | ◆(本堂裏)共同墓地 | 8月13日(土) 午後5時～ |
| ◆(本堂裏)墓地 | 8月14日(日) 午後5時～ | ◆(北大谷)市営墓地 | 8月15日(月) 午前8時～ |

顯正寺の義納金のお願い

一昨年より在所の壇信徒(5,000円)だけでなく、他所の方にも本山への義納金(3,000円)をお願いすることになりました。同封の郵便振替用紙をお使い頂き、郵便局にてご納付頂きたくよろしくお願い致します。